

## 生物と環境

科目到達目標:がんなどの疾患を生物学的な観点からその発生環境を解き明かす

科目責任者(所属):岡田 太(病態生化学)

回数	月日	時限	講義室	授業内容	担当者	講座・分野・診療科	到達目標	授業のキーワード
1	4/5(水)	1	231	生体外環境と発がん	岡田 太	病態生化学	生体外の環境要因による発がんを理解する。	環境発がん
2	4/12(水)	1	231	生体内環境と発がん	岡田 太	病態生化学	生体内の組織環境と発がんを理解する。	加齢、炎症発がん
3	4/19(水)	1	231	がん悪性を促す環境因子	岡田 太	病態生化学	生体内環境と悪性化(転移)を理解する。	転移
4	4/26(水)	1	231	食生活とがん(1)	尾崎 充彦	病態生化学	食生活とがんとの関連を理解する。	食事
5	5/10(水)	1	231	食生活とがん(2)	尾崎 充彦	病態生化学	嗜好品とがんとの関連を理解する。	喫煙、飲酒
6	5/17(水)	1	231	微小環境と幹細胞	平塚 正治	細胞工学	幹細胞を取り囲む微小環境(ニッチ)による幹細胞運命を制御する仕組みを理解する。	ES細胞、iPS細胞、造血幹細胞
7	5/17(火)	5	231	宿主微小環境におけるコミュニケーションツール	岡田 太	病態生化学	細胞間の情報交換・伝達の仕組みを理解する。	エクソソーム、マイクロRNA
8	5/24(水)	1	231	環境とエピジェネティクス	久郷 裕之	遺伝子機能工学	環境因子が及ぼすエピジェネティクスの動態変化と疾患との関連性を理解する。	メチル化、がん、双子

教育グランドデザインとの関連: 2、5 学位授与の方針との関連: 1

参考書: 特に指定なし

評価: レポート100%